

平成 24 年度 保健体育部 「平成 23, 24 年度長崎県教育委員会指定学校保健研究発表大会」保健指導授業実践

研究題目 「生涯を通じて主体的に健康管理ができる生徒の育成」 副題 学校感染症への取り組みを通して

はじめに・・・

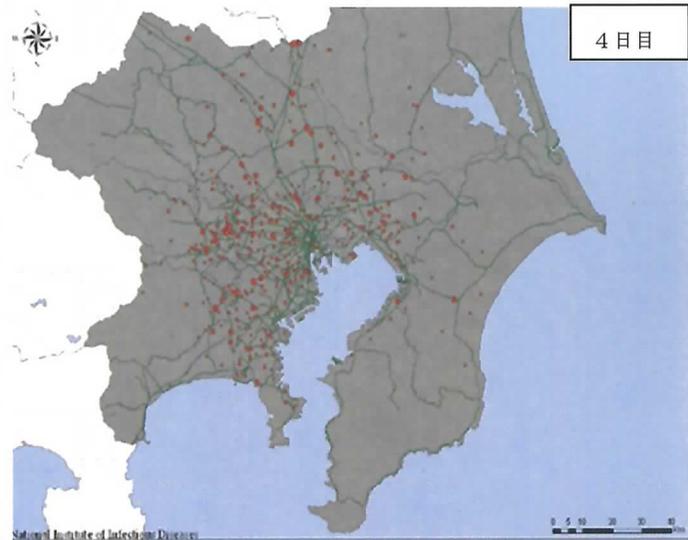
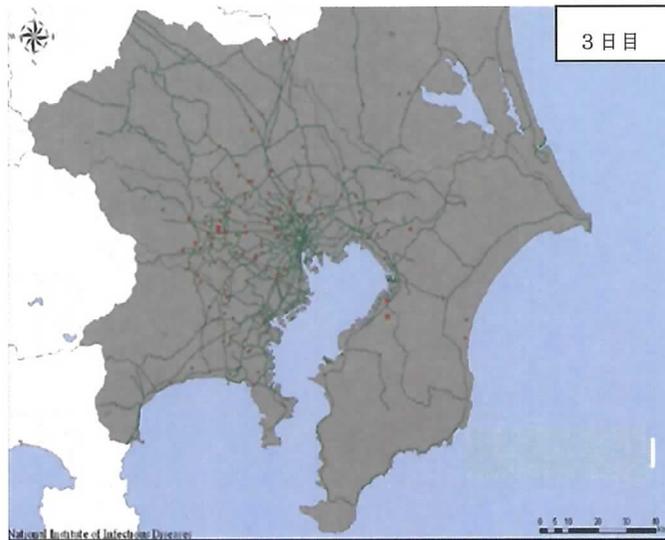
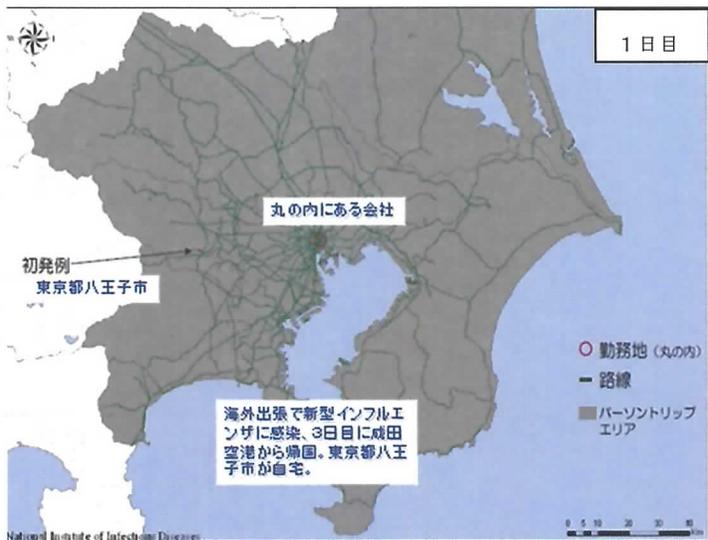
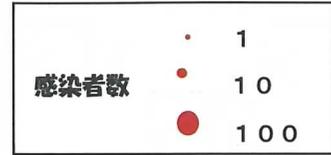
本日の保健指導は学級経営の一環として捉えていただき、本時に関する授業実践の成果（アンケートの結果、デジタルデータ（授業実践風景など）は、本年度本校の研究発表の中核として使用させていただきます。よろしくご協力お願いします。

<保健指導指導案>

1. 日 時：平成 24 年 11 月 7 日（水）6 時限目（LHR）
2. 場 所：各クラス
3. 指 導 方 法：正副担任によるチームティーチング（不在の場合は、各科より指導者を出してもらう）
4. 対 象：全学年（男子 909 名，女子 25 名，計 934 名）
5. 指 導 者：各クラス正副担任
6. 使 用 教 材：（生徒用）A4 版両面刷りプリント 1 枚（表；ワークシート，裏；資料），感染拡大シミュレーション 1 枚，
A4 版片面刷りプリント 1 枚（授業アンケート）
（教師用）生徒用プリント A4 版両面刷りプリント 1 枚（表；ワークシート，裏；資料），ワークシート回答例 1 枚，
感染拡大シミュレーション 1 枚，参考資料 A4 版 1 枚（両面刷り）（表：学校感染症 裏：9/26 職員研修のまとめ）
7. 指 導 内 容：学校感染症に関する知識の習得とその予防法
8. 指 導 計 画：学校感染症に関する基本的な知識とその予防（本時 1 時間完結）
9. 本 時 の 題 材：新型インフルエンザ（鳥インフルエンザ，H5N1 型インフルエンザウイルス）の感染と予防
10. 本 時 の 目 標：(1) 学校感染症の原因や拡大時の影響の大きさを知る。
(2) 学校感染症の予防法や対策を自分の生活と関連づけて考えることで，自己管理能力を養う。
11. 本時の指導研究：健康管理を「個人としての管理」と「集団の中の一人としての管理」の視点から捉え，その責任と大切さを理解できたか。
12. 本 時 の 流 れ：(1) 担任と副担任は指導の流れを把握し，各クラスで指導内容を予め分担し，授業を進める。
(2) H5N1 インフルエンザウイルスによる感染拡大のシミュレーションの図を見ながらその様子を確認する。
(3) 生徒は，指導者からの感染拡大に関する発問に対し，ワークシートに答えを書き込む。
(4) 生徒は，指導者からの発問（W.S の罫と副）に答える。指導者は，1 つの質問事項に対し生徒 2～3 名に発表させる。
(5) クラスの保健委員または委員長は，生徒の発表内容を質問毎に簡潔に板書する。

	学 習 内 容	教師の活動（指導上の留意点）	生 徒 の 活 動
導 入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 学校感染症について 学校感染症拡大の様子をシミュレーションで行う 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に、今までかかったことのある病気を尋ねる。 (挙げた病名をいくつか板書する。) 学校感染症を簡単に説明（ワークシートにも記載）。 感染拡大シミュレーションのプリントの簡単な説明。 このとき、上記プリントを読み、拡大の様子を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で流行った病気をいくつか発言する。 教師の話の聞き、感染症についてのおおまかに理解する。 感染拡大シミュレーションのプリントから、H5N1型インフルエンザの感染力の強さを視覚的に理解する。
展 開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 導入時の感染拡大シミュレーションの例から、感染症の影響について 感染症に関する知識の重要性について 自己管理と、集団の中の一人としての管理の2つの面からの管理の重要性について 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、感染症の影響について考えさせる。 発問内容（ワークシートに記載）を指導者が読み上げる。 ↓ 生徒記入（記入する時間を少し与える） ↓ 2, 3名に発言させる（発言がなければ、回答例などを用いてもよい） ↓ 板書（保健委員または教員） ※「④感染症が流行したとき、家庭や学校の様子・対応などはどうだったか。」の間では、例として2009年のインフルエンザの大流行などを指導者側から投げかけてもよい。この場面では、教師側から過去の体験談や予想されることを話すこともできる 板書内容を参考にしながら、次のまとめにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師からの発問（ワークシートに記載）に対し、ワークシートに答えを書き込む。 発言を促された2, 3名の生徒は記入したものの中から1つだけ発言する。 （保健委員を動かす場合）保健委員は、教壇近くに待機し、説明や生徒の意見を聞き、板書を行う。 ④注 生徒は、板書内容を写す必要はない。 板書の内容と自分が記入した内容を比較（検討）し、 ①感染拡大の原因 ②感染拡大が社会に及ぼす影響 ③感染者のとりべき行動 を把握する。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> H5N1型インフルエンザに関する知識・予防法のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 展開の内容を参考にH5N1型インフルエンザに関する正しい知識とそれに基づく行動力がなければ、感染拡大は防ぐことができないことを理解させる。 生徒用W.Sの裏面を読み（生徒に読ませてもよい）、知識・予防に関するまとめを簡潔に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 展開の内容とH5N1型インフルエンザに関する知識と予防法（補足資料：ワークシート裏面）を関連させ、従来の季節性インフルエンザとの違い、予防法・対処法を正しく理解する。 自己管理（「健康チェック」（補足資料：ワークシート裏面）参考）と集団の中の一人としてなすべきことを確認する。
アンケート 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業に関する評価 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートのすべての項目を回答させ、記入漏れがないか確認の上、回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> 記入漏れがないようにすべてを回答する。

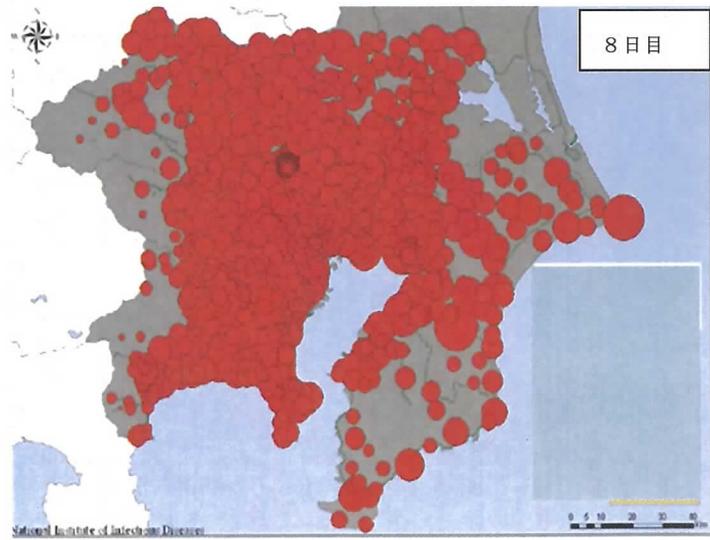
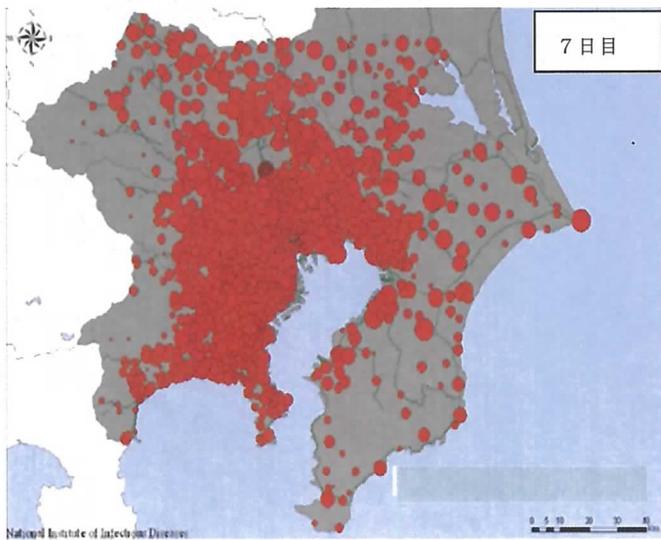
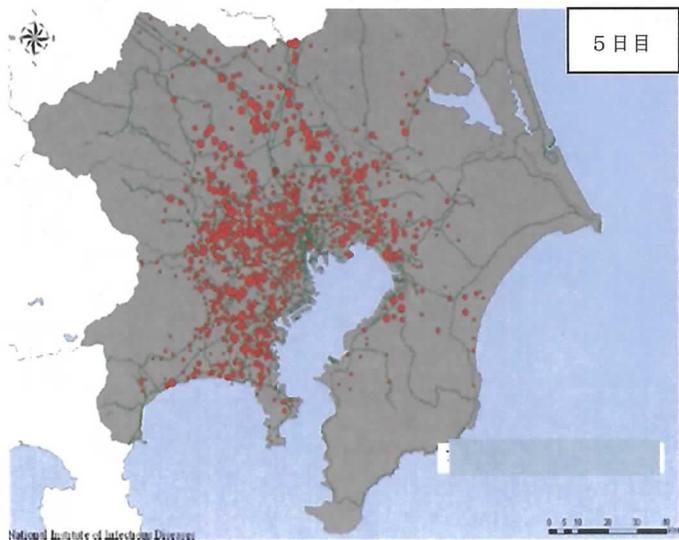
H5N1 型インフルエンザ 感染シミュレーション (国立感染症研究所)



● 3日前海外で感染し帰国、体調は悪かったが無理をしてJRに乗って八王子の家から丸の内にある会社に行く。

● 無理をして出勤したが、高熱のため病院に運ばれる。
〈職場を中心に感染者150人〉

● 国立感染症研究所 新型インフルエンザ (H5N1) と確認



● 政府が新型インフルエンザの国内侵入を公表

● 京阪神で感染者を確認
〈首都圏 感染者3万3千人〉

● 中京圏・福岡・仙台・札幌でも感染拡大が確認
〈首都圏 感染者13万人〉

新型インフルエンザ(鳥インフルエンザ, H5N1型インフルエンザウイルス)の感染と予防

平成 24 年 11 月 7 日 (水) LHR

1. 学校感染症とは・・・学校で感染する可能性の高い病気の総称。
生命を脅かす感染症(第1種学校感染症:11種)から感染の状況から判断して感染症として措置をとれるものまで(第2種,第3種,その他:24種)ある。

鳥インフルエンザは第1種感染症であり,インフルエンザは第2種学校感染症である。

2. 感染症の影響

質問1 感染拡大シミュレーションのプリントを見て,なぜこのように感染が拡大したと思うか。

質問2 感染拡大後,世の中(学校を含めた社会全体)はどのようになると思うか。

質問3 今までに,学校で流行った感染症(病気)の経験はないか。(経験談)

いつ頃: 小学校以前 小学校 中学校 高校 感染症(病)名 _____
○をつける。

いつ頃: 小学校以前 小学校 中学校 高校 感染症(病)名 _____
○をつける。

質問4 質問3で答えた時期の,学校や家庭の様子・対応などはどうであったか。

質問5 最初のシミュレーションの第1番目の感染者は何をすべきだったのか。

自分に対して _____

周囲の人たちに対して _____



3. 感染症に対して私たちがなすべきこと・・・ **健康管理に関する自己管理目標** (簡潔に)

個人としてなすべきこと

集団の中の一人としてなすべきこと

(_____) 科 (_____) 組 (_____) 番 氏名 (_____)

補足資料

- (1) 新型インフルエンザ（H5N1型新型インフルエンザ）とは
これまでになかった新しいインフルエンザウイルスによって起こる感染症。



- (2) 新型インフルエンザ（H5N1型）と（季節性）インフルエンザの違い

	新型インフルエンザ（H5N1型）	（季節性）インフルエンザ
流行時期	・いつ流行するか分からない。	・冬になると流行する。
原因	・鳥インフルエンザウイルスが変化して、人から人へ感染する。 ・今までにないまったく新しいウイルス。	・今まで流行したウイルスが少し変化したもの。
特徴	・強毒性。「ウイルスに触れば 100%感染し、重症化しやすく、致死率も高い」 ・10代～20代までの若年層で重症化しやすい。 ・感染力がかなり強い。	・毒性は高いが、H5N1型よりも弱い。 ・重症化しやすいのは、乳幼児や高齢者など。 ・（H5N1型よりも弱い）感染力は強い
症状	・高熱やのどの痛みのほか、急激に症状が進行し、肺炎・腎不全・脳炎、吐血・下血など重症化する。	・高熱やのどの痛みが数日続くが、安静にしていれば自然に治る。

- (3) 予防法・対処法について

【予防法】

- ① 冷静な情報活用。 どこで、どのような、インフルエンザがどのくらい流行しているのか。
- ② 毎朝、健康チェック（「健康チェック表」参照）を行う。
- ③ 咳エチケットを守る。（マスクをしていても飛散する）
- ④ 手洗い・うがい・洗顔（目や鼻も洗う）
- ⑤ ウイルスにさらされる場所に近づかない。（外出を避ける）
外出するときはマスク、帽子、ゴーグル（目の粘膜からの感染を防ぐため）などを着用する。
- ⑥ 「安静」、「休養」、「栄養」に配慮し、薬に頼らない体力づくりを心がける。

【対処法】

感染が疑われる場合（「健康チェック」参照）

- ① 発熱コールセンターや地域の保健所へ電話→受診方法について指示を受ける。（外出しない）
- ② 感染者の **完全隔離**（自宅でも）。
- ③ マスクの着用と感染者の触れたものや着物の **消毒**。

健康チェック（早期発見，早期対処のために）

※急な高熱，咳がある場合は疑わしい。

- 高熱が出ている（38℃以上）。 咳をしている。 激しい倦怠感（全身のだるさ）がある。
 筋肉痛がある。 関節痛がある。 下痢・腹痛を起こしている。 嘔吐している。

その他の症状がある場合は、新型インフルエンザの感染が疑われる。